

別記様式第9号

さとうきび農業機械等リース支援事業に関する事業評価票

事業名	都道府県名 地区名	事業実施 主体名	対象作物 等	事業実施 年度	成果目標の 具体的な内容	成果目標の達成状況				具体的な取組内容	基金管理団体の意見	
						基準年 (計画策定時) 平成24～ 25年	目標値 平成28年	実績値 令和5年	達成率			
1	さとうきび 農業機械等 リース支援 事業	鹿児島県 種子町 中種子	公益財団法人 種子島 農業公社	さとうき び	26年度	10a当たりの労働時間を削 減 (hr/10a)	16.6hr	11.4hr	14.4hr	42.5%	ハーベスタ (MCH-15WE2) 収納袋41枚	ハーベスタの導入により、収穫作業の省力化が図られたものの、作付け 品種の変更や1台当たりの受託ほ場数の増加等により収穫作業が低下 し、成果目標は未達成となった。引き続き機械を活用することにより、 作業の効率化に努めるとともに、受託組合間での受託ほ場の調整を行う など、労働時間削減に向けた取組を実施していく必要がある。
2	さとうきび 農業機械等 リース支援 事業	鹿児島県 南種子町 島間	横峯中央さとうきび生産組合	さとうき び	26年度	10a当たりの収量を増加 (t/10a)	7.360トン	7.800トン	0.000トン	-1672.7%	ハーベスタ (HC-51K) 収納袋50枚	ハーベスタの導入により、収穫作業の効率化が図られ、労働時間を削減 をしたことで、適期の株出管理作業が可能となった。しかしながら、オ ペレーターが確保できず、目標は達成できなかった。今後、オペレー ターの確保・育成に努め、効率的な栽培体系を確立し、目標達成に向け た取組を継続していく必要がある。
3	さとうきび 農業機械等 リース支援 事業	鹿児島県 南種子町 西之	安久保さとうきび生産 組合	さとうき び	26年度	10a当たりの収量を増加 (t/10a)	6.350トン	7.000トン	4.880トン	-226.2%	トラクター (44ps) , ロー タリー	トラクター及びロータリーの導入により、耕耘・整地作業の効率化が図 られ、適期の株出管理作業が可能となった。しかしながら、台風による 生育遅れ等の影響により、単収の目標は達成できなかった。また、収穫 後の萌芽不良が多く、廃耕にするほ場が増えたことで株出栽培の割合を 増加させることができなかった。今後とも導入機械を活用することによ り適期管理作業に努めるなど、目標達成に向けた取組を実施していく必要 がある。
						株出栽培の割合を増加 (%)	77.2%	81.3%	75.3%	-47.6%		
4	さとうきび 農業機械等 リース支援 事業	鹿児島県 南種子町 長谷	株式会社 南種子精脱 業	さとうき び	26年度	10a当たりの収量を増加 (t/10a)	6.450トン	7.500トン	4.830トン	-154.3%	トラクタ (99ps) , ロータ リー, プランソイラ, プ ロードキャスター, ハイド ロブッシュ	大型機械導入により、作業効率を上げ、今まで遅れていた適期作業が可 能となり、株出割合を増加させることができた。しかしながら、台風に よる生育遅れ等の影響により、単収の目標は達成できなかった。今後と も導入機械を活用することにより土作りや適期管理作業に努めるなど、 目標達成に向けた取組を実施していく必要がある。
						株出栽培の割合を増加 (%)	65.4%	70.0%	H29達成済			
5	さとうきび 農業機械等 リース支援 事業	鹿児島県 喜界町塩 道	塩道さとうきび生産組 合	さとうき び	26年度	株出栽培の割合を増加 (%)	69.0%	77.0%	75.3%	78.8%	ハーベスタ (HC-40) , 収納袋42枚	ハーベスタの導入により、収穫作業の効率化が図られ、労働時間を削減 したことで、適期の株出管理作業が可能となった。一方で、高齢化に伴 い手放された農地を引き受け、新植面積が増加したことなどが要因とな り、目標は未達成となった。今後は、収穫作業の受託者への適期株出管 理を啓発するなど、株出栽培面積拡大に向けた取組を実施していく必要 がある。
6	さとうきび 農業機械等 リース支援 事業	鹿児島県 徳之島町 徳和瀬	徳和瀬上木野さとうき び営農改善組合	さとうき び	26年度	10a当たりの収量を増加 (t/10a)	5.185トン	5.703トン	4.786トン	-77.0%	ハーベスタ (MCH- 15WE2) , 収納袋30枚, 全莖式植付機	ハーベスタ及び植付機の導入により、収穫・植付の省力化が図られた が、梅雨期の雨天が多く適期管理が進まなかったことや、イノシシ被害 によって生産量が減少したため、成果目標は未達成となった。今後は、 引き続き適期収穫・植付を継続するとともに、収穫後の適期管理及びイ ノシシ対策の取組を進め、更なる収量増加に向けた取組を実施していく 必要がある。